

日本山岳会 越後支部報

第 19 号

平成29年 6月28日
発行 公益社団法人日本山岳会越後支部
発行者 遠藤 家之進正和
新潟県新潟市南区鷺ノ木新田1049
TEL・FAX 025-362-5004
広報委員長 佐久間雅義



私の一枚

魚沼 未丈ヶ岳 (1,552m)

2017年4月2日 まだ雪深い銀山平から未丈ヶ岳を目指した時の一枚です。越後支部70周年記念、中ノ岳登山メンバーと再びの山行でした。この時期でなければ登れない究極なコースで、日向倉山、丸山分岐を経て未丈ヶ岳へつづく稜線上を、魚沼の山々を眺めながら、交流を深めた楽しい一日でした。

撮影 和田 守 (小千谷市)

総会挨拶と今後の方針

支部長 遠藤 家之進正和

新緑が深まった魚沼市湯の谷の佐梨川河畔に立つホテル「ゆのたに荘」で、平成二十九年年度の総会が開催されました。

昨年度は、七十周年の記念行事を含め多くの行事を実施しましたが、会員皆さんの協力を得て、無事終了できたことに感謝申し上げます。

今年度からは、私の二期目の態勢で活動が始まります。三月の三役・委員長会議で、総会は役員改選となるので、協力要請をしたところ、出席役員の了承を得ました。しかしながら、高齢であること、身体の不調で協力できないこと、規約の関係で退任、県山協の役員に就任することで交替を希望している後任を選考し、就任の了解を得るには大変でした。就任を了承してくれた顔ぶれは、新年度を始動するに十二分の人材を得たものと自負して、総会に提案し、承認を得ました。

越後支部は、二百名に近い会員を有していますが、平均年齢が七十四歳と高齢化となつて、全国平均を上回っています。この事は、支部長会議で常に議題となつていました。その対処方法にある支部で、若手の会員募集をするために、ホームページを整備したら、若手から多くのアクセスあつたとの報告がありました。

越後支部でもホームページは開設されていますが、専門的に担当してくれる役員がいなく更新されない状況でした。文字より視覚から観てもらえると、支部の活動に興味をもってもらえるのではないかと。

そんな思いから、会員が行事に参加しやすく、併せて会員募集に寄与できないか模索して、ホームページを整備してもらえよう広報委員会にお願いしたわけです。

藤島蔵書の整理が整い、関川村と連携協定が締結されました。昨今は山岳案内書も多種多様の物が発行されていますが、越後の岳人は、藤島玄著書の「越後の山旅」で山に登り始めたといつても過言ではないでしょう。

藤島氏が、どんな思いで執筆したのか、関連方面への資料提供依頼のやり取りからどの文章となつたのか、地図となつたのか、思いを馳せながら藤島研究の場としても、新潟から見える山並みや飯豊連峰の写真を眺め、山岳文化の拠点としても利用して欲しいものです。

越後支部は、公益法人としての事業、会員相互の親睦を深める山行を開催していきますが、安全登山を念頭に置き、創立八十年に向けて、自分にできる範疇で実行していきたいと考えています。

藤島蔵書の協定調印成る

高辻 謙輔

今を去る二十七年前の一九九〇年、藤島玄元越後支部長の遺族から関川村山の会に約六千冊の図書を始め、写真や手紙など膨大な資料が寄贈された。関川村とは戦時中、家族の疎開先という縁があり、また平田大六会長とも親交が深かったためという。

これらの図書類は関川村山の会が整理した後、村の所有となつて関川村民会館内の図書室に保管、公開されてきた。二〇一〇年には越後支部からの助成金をもとに蔵書目録が作成された。二〇一四年、蔵書類を「関川村川北ふれあい自然の家」(旧川北小学校舎)へ移管するにあたり、その根本的な整理について平田村長から五十嵐前図書委員長に要請があった。

越後支部では関係山岳会の協力を得て、図書委員会の平成二十六年度事業として藤島蔵書の分類整理を行った。それらの経緯については越後支部報の第十二号と第十七号で報告したとおりである。

書簡や写真など蔵書以外の諸資料の整理については、現在も佐久間会員を中心に登録会員によるボランティア活動を継続している。そして関川村所有の藤島蔵書に係る諸施設の利用促進に今後越後支部が関わるためには、村と協定を結ぶ必要性が叫ばれ、

先年から打診、提案をしてきたところ、このたび同意を得るに至ったのである。

藤島蔵書に係る関川村と日本山岳会越後支部との連携に関する協定調印式は、去る五月十八日(休)午前九時から川北ふれあい自然の家図書室で行われた。当日は越後支部会員と村教育委員会職員が見守るなか、平田村長と遠藤越後支部長との間で協定書が取り交わされた後、両人から協定締結の趣旨と意義が述べられ、平田村議会副議長と遠藤県山協副会長の祝辞をもつて閉会した。



越後支部創立七〇周年記念事業として、「日本三百名山越後支部担当二十一座踏破」の計画を無事終了することができました。ご協力いただいた多数の支部会員皆様にお礼申し上げます。

昨年三月二十七日浅草岳登頂を皮切りに、最終の十一月三日御神楽岳まで二十座の登頂を成し遂げました。残念ながら七月十七日に予定していた焼山は、噴火警戒規制により入山禁止となったため中止せざるを得ませんでした。

昨年十二月十日の越後支部年次晩餐会記念式典講演会で、各登山隊が撮影した登頂写真や登山風景の写真を七十一枚のスラ

イドにまとめました。スライドタイトル「越後の鈍と根」は、創立二〇周年の県境全踏査縦走を成功させた時に、故深田久弥氏が越後支部を評した言葉を引用しました。そのスライド上映をしながらリーダーの方々から登頂報告をおこなっていただきました。なお、正式な報告書は、本年十二月に発行予定の「越後山岳第十三号」に掲載するつもりです。



今後の藤島蔵書訪問に ついでのお知らせ

藤島蔵書整理委員会事務局
渡邊 忠次

平成二十九年五月十八日に関川村と越後支部の連携協定が成立しました。今後越後支部の会員は、藤島蔵書を閲覧できる事になります。但し常にオープンしている図書室ではありませんので、事前に関川村歴史と道の館へ電話を入れて、訪問日時を打ち合わせ下さい。藤島蔵書登録人が、立会いの上閲覧をして頂きます。

越後支部以外の日本山岳会会員をご案内する際は、越後支部会員の立会いが必要ですので、上記の予約が必要になりますので、宜しくお願致します。

一般の方を越後支部会員がご案内する際も、事前予約が必要ですし、藤島蔵書登録人である越後支部会員又は、藤島蔵書登録人の立会いが必要です。

貴重な蔵書が多いので、貸し出しは不可ですが、写真撮影は可としております。

関川村歴史と道の館

〇二五四一六四一一二八八

第七回中部ブロック 交流会に参加して

多田 政雄

山梨県甲州市勝沼町のぶどうの丘で山梨支部の担当で開催されました。

越後支部より遠藤支部長、桐生副支部長、佐藤副支部長、井口監事、井口礼子さんと私の六人が参加。ぶどう寺（大善寺）で御住職の蘊蓄の有る説明を受けました。柏尾山大善寺は開山一三〇〇年の歴史があり本堂（薬師堂）は関東で最古の木造建造物で薬師三尊像を安置しており国宝に指定されており、薬師如来像はぶどう薬師と呼ばれており手に薬瓶の代わりにぶどうをお持ちになっておられ、大変珍しいとの事です。三尊とも国の重要文化財に指定されています。講演では「田部重治と奥秩父について」と題して矢崎茂男氏のお話がありました。田部重治は明治十七年富山市に生まれ明治四十一年二十四歳で妙高山に十一月に小暮理太郎と高尾山四十二年二人で小仏峠一三頭山一多摩川上流部一雲取山の縦走田部の登山は俄然、熱を帯び七月早月谷から立山八月に有峰から薬師岳十月に十文字峠一甲武信岳一梓山一金峰山に登りこの年日本山岳会に入会する。大正五年十月発行の日本山岳会誌山岳は秩父号と題され田部は「秩父の旅 秩父の印象 秩父旅行の思い出を」小暮は「奥秩父の山旅日記

奥秩父の登山に関する注意 笛吹川の上流一東沢と西沢」を寄稿しこの山域を奥秩父と呼ぶ事を一般化し二人が奥秩父の開拓者と評価されるようになった。昭和四十七年八十八歳で病没 主な著作は多数あるが「日本アルプスと秩父巡礼」が大正八年に出版されました。登山の態度は峻険な絶頂を目指す登山から、山には深森 幽林 溪谷 高原 峠 がありそれらすべてに親しみ融和し鑑賞力を持つことに価値を見出すようになる、これはのちに大島亮吉らにより静観的登山と呼ばれるようになった。「山に登るとゆうことは、絶対に山に寝ることではなければならない。山から出たばかりの水を飲むことでなければならない」(山は如何に私に影響しつつあるか大正八年、慶応大山岳会講演より) 又随筆「笛吹川を遡る」は国語の教科書に採択され全国に笛吹川の渓谷美が知られるようになったとの事でした。翌日は笛吹川広瀬湖上流道の駅みとみに向かう、素晴らしい五月晴れの中を西沢溪谷に向かう途中甲武信ヶ岳登山道を過ぎ田部重治文字碑の前で各支部長が献花して碑建立に尽力された山梨観光協会三富支部長の雨宮功氏の講話がありました。

西沢溪谷の景色を堪能して帰宅致しましたが、特に印象に残ったのは静岡支部で二十歳代の女性が二人入会し若手が活躍しているとの事でした。

大 力 山

滝沢 信子

平成二十九年日本山岳会越後支部総会の親睦登山は、大力山でした。初めての山は、いつもわくわくと興奮します。宿舎の玄関で参加者の記念撮影後、小雨ぱらつく中、響きの森公園までそれぞれの車で移動しました。登山準備後は、雨もあがり、徒歩五分で登山口に到着しました。遠藤支部長の挨拶後、登山開始です。直ぐに緩い坂道、しばらくするとお堂があり、ここで少し止めます。その時、切り株に大きくて白いきのこを何方かが発見し、写真を撮る人、珍しがって触る人、収穫する人、皆さん興味津々でとても面白い光景でした。珍し物大好きな私は、直に近寄って二ヶ収穫し持ち帰りましたが心配で食べていません。

休憩後、お堂の裏手の登山道を更に登り、時々振り返ると曇り空の中、小出の町並みがきれいに見られました。(曇り空の中、何も見えないと思っていたのでとてもラッキーでした。)更に登って行くと登山道の両脇に蕨や根曲り竹が出ていて、山菜採りに夢中の人もちらほら、山菜採りに私も参加です。山頂までずっと登りで山菜のお出迎えと今年もマイマイガの大歓迎を受けました。山頂までは、約一時間位かかり、全員登頂出来ました。雨も上がり、山頂からは、魚沼の町が見え、とても良い登山になりました。

山頂には、ドーン立っている東屋がありましてそこでもマイマイガのお出迎えがありました。各々お茶タイムを摂り、記念撮影を撮って下山となりました。下山途中雨になりましたがあまり気にならない程度で無事下山、登山口で解散となりました。今日も楽しい山旅となりました。小千谷の松井様を始め、段取りをして頂いた方々に感謝を申しあげます。ありがとうございました。



スノートレッキング

同好会の現状

同好会長 桐生 恒治

スノートレッキング同好会は、平成二十四年度の越後支部年次晩餐会で来賓参加された尾上昇元会長が、「支部活性化のために支部会員が参加できるいろいろな同好会を創って欲しい。」と強調されたことを受けて、平成二十五年十一月に田邊信行、吉田理一、後藤正弘、桐生恒治の四名が中心になって結成した。平成二十六年の支部総会において支部の組織となり総務委員会の管轄下と言うことで規約に明記され活動を開始した。渡辺欣次、佐藤レイ子、伊藤直、石山政雄、松井潤次の五名が加わり現在に至っている。平成二十七年度は初代田邊会長のもと四月に上越の青田南葉山にて最初の雪上散歩を楽しんだが、積雪・残雪期の活動と言うことで季節的には限定されるため山行機会は少ない。その後同好会長を桐生が引き受けたが、平成二十八年度は越後支部創立七十周年記念事業として二十一座踏破登山の一角に組み入れて、三月に浅草岳と四月に二王子岳の登山を実施した。次の同好会長の松井潤次からは、来年以降に中越魚沼地区を主にして年に一二回程度、ワカンやスノシューによる雪上トレッキングを企画してみたいと抱負が寄せられている。多くの仲間が集うような楽しい山行を期待したいと思います。

第三回靴音・よりあいの集い

会津若松市 『本元飯豊山』

ほんもといいとよさん

(二〇一七年六月十一日)

参加者 遠藤支部長以下十四名

井口 礼子

本元飯豊山は飯豊連峰の一角にある山と
思っていたが、福島県会津若松市芦ノ牧温
泉の近くの山であった。神様である大戸神
の娘で姉が思案女、妹が飯豊女の姉妹が繰
りなす伝説がいくつか語り継がれている山
でもある。

参加予定者十四人が集まり、桑曾根集落
の外れのやや広い場所や道路に駐車する。
会津の佐竹さん、唐橋さんの挨拶の後、
ゲート脇を通り、イノシシが食べたと思わ
れるクズの根の掘れた跡やクマ剥ぎの木を
見ながら林道を歩く。

九時四十五分、注連縄が張られた登山口
で佐竹さんが三〇cm程のクマ避けの爆竹用
火花(町内で配給があるのだそうだ。)に
火をつける。五連発も出て、三〇〇m位
までは音が届くとか。「飯豊山」と彫られ
た大きな石碑を右に鳥居をくぐり進む。六
月のこの時期は祭りの前の為、刈払いがさ
れておらず所々登山道が不明瞭であった。
マーキングテープもあるが、作業道も何本
もあり、熟知した方と同行しないと迷いや
すい。時折、爆竹を鳴らす。途中、初めて



本元飯豊神社前にて

見たオニクの咲く場所に注連縄と共に乳母
様が祀られていた。急登に次ぐ急登の連続
である。滑らないように少しでもつかまる
ものを探して登る。噴火時に飛散して来た
という巨大な溶岩が見られた。高畑岩屋は
大きな岩棚になっており、ここにも注連縄
が張られていた。距離は短い、梯子、鎖、
急斜面のトラバースと久しぶりに緊張した。
少し休憩といっても平らな場所も無く、修
験道であった事が思われる。

十一時二十分、高畑山(九四三m)の中
腹にある本元飯豊山神社(六七〇m)に着
く。拳大(こぶ)くらの穴が沢山空いていて、奇
岩ともいえる岩壁の下に昭和二十六年再建
の木造りの本殿があった。森沢さんの「丸
山岳一、八二〇m」の山について、「稲田豊
八氏(旧栃尾市出身・現長岡市)：会津朝
日岳初登頂」、「町田敏男氏(当時、長岡市



熊剥ぎ

たくさんさんのフタリシズカとヤブレガサの
群生。ヒメコウゾやアケビ(ゴヨウ)。イ
ノシシの「ぬた場」。ツキノワグマによる
クマ剥ぎ。爆竹を七回も鳴らしながらの初
めての山行。低山ながらスリルある山行を
堪能できた事、とても嬉しく思いました。

にあった理化学研究所に勤務されていた)
の遭難：只見山塊の踏査に尽力」等、功績
のお話をお聞きする。岩壁に「イワタケ」
があると教えられ、初めて見るキノコを手
にする人も…。皆さんから差し入れを頂い
たり、会津の方々からは大福餅を頂いたり
と楽しい時を過ごす。
十二時三十分、下山を開始。別の登山道
を下る。丁度一周をすることになる。登り
の急登に比べ、穏やかな登山道である。途
中、杉の大木にツキノワグマの真新しい爪
跡の残るクマ剥ぎを見つけ、一瞬、緊張が
走る。出発から五十分程で林道に出た。

「子ども登山教室」

事業のスタート

自然保護委員会委員長

鶴本 修一

五月の支部総会で自然保護委員長を仰せ
つかりました鶴本と申します。入会して七
年目の弱輩者ですが、多くの皆様からの御
指導を宜しくお願い致します。

昨年から事業として実施した「親子登山」
のPR不足などの反省点を教訓にして、今
年の三月、遠藤支部長を中心に三役と小山
事業委員長と私が集い、新たな立ち上げを
検討しました。

- 事業の目的や趣旨について
- 担当する委員会の位置付けと運営の体制
- 実施基本計画（思案）の検討
- 後援依頼
- PR方法（チラシ等の作成）
- 予算計画

今年度の実施計画の概要は、支部総会で
配布されましたチラシに集約されています。

〈目的・趣旨〉

「山の日」制定の趣旨を受け止め、次世
代を担う子どもたちに、山の自然に親しむ
機会を提供することで、子どもたちが豊か
な自然の素晴らしさや、その自然を守り育
てていくことの大切さに気付くことを狙い

に実施します。当面は、上越地区会員の協
力体制を整えて実施します。

〈継続事業として実施〉

スタートは糸魚川市で実施。世界ジオ
パーク認定地の魅力を生かした登山教室の
実施。昨年暮れの駅北大火の復興支援を兼
ねる。五ヶ年計画をもとにして、毎年「山
の日」に実施する。市内小学校へのチラシ
を配布しました。どのような反応があるか
が楽しみです。そして、これからは八月一
日の事前学習会準備や当日の「しおり資料」
作りを進めていきます。元気な子どもたち
と共に過ごす「戸倉山登山教室」を心待ち
にしながら……。



公募登山コンテスト

事業委員会委員長

小山 一夫

本部の公益化で始めた公募登山も今年度
で四年目を迎えました。始めは手さぐり状
態でしたが、石井スポーツにチラシをお願
いし新潟日報に掲載をお願いしながら着実
に成果が表れ始めたと思います。毎年三回

今年の実施山域

- ・ 七月一日(土)～二日(日)
- ・ 七月一日(土)～二日(日)
- ・ 八月二十七日(日)
- ・ 十月二十二日(日)

上高地集会「焼岳・徳本峠」

雨師山

白鳥山

集会委員会合同
会員の皆様のご協力と支援をよろしくお
願致します。

集会委員会からお知らせ

遠山 實

十月二十一日～二十二日

飯士山(一一一五・五m)

南魚沼市・湯沢町

宿泊…高波ヒュッテ

二十一日 一四・〇〇集合

南魚沼郡湯沢町土合

宿泊料…六三〇〇円(酒代別)

申し込み…遠山委員長

〇二五四―七三―〇四六七(夜)

締切…十月十一日



すべての活動を会員拡大につなげよう!!
平成二十九年越後支部総会

五月二十七日、魚沼市「ホテル ゆのたに荘」で行われた平成二十九年越後支部総会は、出席者五十名・委任状一二〇名(総会議決率八六%)で、すべての議案が承認されました。本年度は、支部役員の変更が行われ、役員の互選により支部三役と各委員長及び各副委員長、専門委員が決定・承認されました。新役員の任務分担は次の通りです。

また、多年支部の役員を歴任、組織に大きく貢献したことは、規約第八条に該当するとして山崎幸和氏を越後支部名誉会員に推薦・承認されました。なお、支部内規の規定により顧問は退任されました。

体調等により、役員を退任された本間一人広報委員長、吉田理一自然保護委員長、田中栄弘支部委員、斎藤トモ子支部委員、大変ご苦勞様でした。これまでの活動に感謝申し上げます。

- 支部長 遠藤家之進(再・新潟市)
- 副支部長 桐生 恒治(再・見附市)
- 副支部長 佐藤レイ子(再・新潟市)
- 事務局長 後藤 正弘(再・上越市)
- ◎常務理事・事業委員長 小山 一夫(再・新潟市)
- ◎理事・事業副委員長 成海 修(再・新潟市)
- ◎理事・事業委員 森沢 堅次(再・会津若松市)
- 事業委員 滝沢 信子(再・五泉市)
- ◎常務理事・集會委員長 遠山 實(再・村上市)

- ◎理事・集會副委員長 立入 清(再・上越市)
- ◎理事・集會委員 諏訪 恵一(新・長岡市)
- ◎理事・集會委員 佐竹 信幸(再・会津若松市)
- 集會委員 佐藤 邦雄(再・魚沼市)
- 集會委員 小林 頼雄(再・弥彦村)
- ◎常務理事・広報委員長 佐久間雅義(新・新発田市)
- ◎理事・広報副委員長 鈴木 勝利(新・新潟市)
- 石山 政雄(新・胎内市)
- 広報委員 佐藤 芳英(再・田上町)
- 広報委員 春日 良樹(新・妙高市)
- 広報委員 井口 光利(新・見附市) 兼務
- ◎常務理事・自然保護委員長 鶴本 修一(新・糸魚川市)
- ◎理事・自然保護副委員長 松井 潤次(再・小千谷市) 兼務
- ◎常務理事・自然保護委員 多田 政雄(再・新潟市) 兼務
- 自然保護委員 井口 礼子(新・見附市)
- ◎常務理事・図書委員長 高辻 謙輔(再・新潟市)
- ◎理事・図書委員 石山 政雄(再・胎内市) 兼務
- ◎常務理事・県山協委員長 多田 政雄(再・新潟市) 兼務
- ◎理事・県山協委員 松井 潤次(再・小千谷市) 兼務
- ◎総務委員長 後藤 正弘(再・上越市) 兼務
- 総務委員 齋藤トモ子(新・長岡市)
- 監事 遠藤 俊一(再・新潟市)
- 監事 井口 光利(新・見附市)
- 顧問 橋本 正巳(再・上越市)

第六十回高頭祭及び
第六四回新潟県登山祭に参加を!!

恒例の行事が「山の日」記念事業として開催されます。全国山の日協議会発起人・梶正彦氏及び日本山岳・スポーツクライミング協会 八木原國明会長が来越され記念講演されます。多くの皆さんの参加をお願いします。

日時 平成二十七年七月二十五日(火)

午後二時三十分 弥彦山大平園地
なお、松明登山参加者は事前申し込みが必要で

支部会員動向

(二〇一七年一月〜六月十日)
一 物故会員
筑木 力(二八四二)
新潟市中央区 三月逝去

浪花 徹(七八三六)
新発田市 三月逝去

矢尾板二郎(九一二六)
長岡市 五月逝去

井野 進(五四一五)
新潟市秋葉区 五月逝去

宝井 俊夫(四六八三)
南魚沼市 六月逝去

二 退会者
高井やす子(一〇九九〇)
湯沢町 三月

三 新入会員
佐藤 真弓(A〇〇二三)
新潟市中央区(準会員) 三月

渡邊 正之(一六一四四)
田上町 四月

多田 和広(一六一六六)
新潟市秋葉区 五月

廣井 博行(申請中) 柏崎市

四 転入会員
佐藤 高晴(一四三四三)
新潟市西区 四月広島支部から転入

五 支部会員総数(五月三十一日現在)
一九七名

広報委員長から
佐久間雅義

本間一人前委員長から支部報を、吉田理一会員からホームページを引き継ぎました。ご両者の長年に渡る献身的な努力にまずお礼申し上げます。

まだ広報に関しては、右も左も良く分からない私ですが、ホームページは速報性を！支部報は皆さんの記事・写真を！と思っております。広報委員会は既に二回の会合を持ちました。越後の岳人とは?を常に考えながら活動をして参ります。皆さんの応援を期待しています。

編集後記

今号から広報委員として編集を担当することになりました。誌面の構成、原稿依頼、印刷発注、校正、発送等を限られた時間内で行う必要があるにもかかわらず、晴れたらついつい山行に夢中になってしまい時間だけが過ぎてしまいました。

結果的に担当とは名ばかりで委員長に頼りきってしまいましたが、何とか皆さんのお手元にお届けすることができました。これで、心置きなくまた山行に没頭することができます。

誌面作成に当たり、ご協力を頂いた皆様には、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。(石山)